

報告

## 徳島大学全学FDプログラムに関するアンケート報告 —FD基礎プログラム・FDリーダーワークショップについて—

神藤貴昭

(徳島大学大学開放実践センター)

(キーワード: ファカルティ・ディベロップメント、アンケート報告、徳島大学)

### A Survey Report of Faculty Development Program in the University of Tokushima —Evaluation of Junior Faculty Development Program, Senior Faculty Development Program—

SHINTO Takaaki

(Center for University Extension, The University of Tokushima)

(Key words: Faculty Development, Survey Report, the University of Tokushima)

#### 1 はじめに

##### 1-1 FDプログラムの多様化

FD (Faculty Development) の実施が、1998年の大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」によって努力目標とされて以来、全国の国公立大学で、様々な形でのFDのとりくみがなされてきている。FDは、広義には教育のみならず研究・社会的サービス・管理運営などを含んだディベロップメントであると考えられるが、これまで我が国では、FDというと、とりわけ教育に限定した狭義のFDのことを指しており、本稿でもその狭義の意味で用いたい。

今日我が国では、FDという概念の啓蒙的段階を経て、よりきめ細かなFD、日常的なFDが求められるようになってきた。もちろん、いまだ啓蒙的段階を脱していないという報告もあるが<sup>(1)</sup>、その概念や必要性の認識はここ数年で格段に進んできており、それと平行して、より個々の実情に合ったFDの支援が求められているのも事実であるし、さらにその先には相互研修型のFDも射程に入れる必要がある<sup>(2)</sup>。

さて、よりきめの細かいFDとして、教員1人ひとりへの個別的支援は別として、例えば、学部学科、職階、在籍年、年齢といった変数に応じたFDプログラムが考えられよう。他校種

でいうと、初等・中等教育教員における初任者研修や10年目研修は、在籍年という変数に注目したものと考えられる。これらの研修は、教員が各時期に特有に現れる問題を把握し、その解決スキルを向上させることを目指したものといえるであろう。同じように、大学教員について考えてみると、例えばある学科に特有の教育上の問題、あるいは初任者特有の教育上の問題が存在しており、これに焦点を当てたFDが構想できる。

徳島大学では、これまで、「属性に応じた」全学FDプログラムの一環として「FD基礎プログラム」「FDリーダーワークショップ」をおこなってきた<sup>(3)</sup>。また、他方で、このような「属性に応じたFDプログラム」とは別に、いろいろな学部学科、職階、在籍年、年齢の教員が集まり、それぞれの授業観やスキルを学び合うという形のFDも重要であり、こちらについては、徳島大学では「FD推進ハンドブック作成ワークショップ」や「授業研究会」等をおこなってきた。

ここでは、「属性に応じたFDプログラム」すなわち「FD基礎プログラム」「FDリーダーワークショップ」について検討する。まず以下で、これらプログラムの概略を述べる。

## 1-2 FD基礎プログラム

FD基礎プログラムは、徳島大学での活動歴5年未満の教員を対象にした宿泊を伴う合宿形式のFDプログラムである。例えば、2005年度では、兵庫県淡路島にある国立淡路青年の家において、6月11日・12日の2日間の日程で、大まかに以下のような流れでおこなわれた(徳島大学大学開放実践センターホームページより)。

3 グループに分けられた参加者同士のアイスブレイキング/「学生から見た良い授業・悪い授業」のアンケートの分析のワークショップ/講演「パフォーマンスマネジメントの視点から授業改善を探る」(鳴門教育大学・島宗理先生)/講義「過去の基礎プログラム参加者の授業の紹介」/講義「授業の計画から準備まで」(授業の計画と準備のプロセスとシラバス)/各グループに分かれて、ミニ授業実施のためのワークショップ/講義「効果的な教え方-実践的教授技術」/ミニ授業(最後に3つのグループが、それぞれ選択した授業科目「恋愛学」、「食生活学」、「新環境学」について、ワークショップを通じて各グループが作成したシラバス、授業計画書、教材によって、グループ毎の持ち時間30分間以内でミニ授業をおこない、それに対する検討、討議がなされた)/プログラムのまとめ

このFD基礎プログラムのねらいは、以下の4点であった(徳島大学大学開放実践センターホームページより)。

1. 徳島大学全学FD活動の理念と活動計画を理解する
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する
3. 授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする
4. FDの共同実践者として仲間づくりができる

これまで、新任教員FDの必要性が指摘されてきたが、2003年12月の調査では、我が国では所属機関や部局の概要を説明するといった研修が34.3%の4年制大学でおこなわれている一方、授業方法に関する研修は15.1%の4年制大学でおこなわれているにすぎなかった<sup>(4)</sup>、徳島大学の本プログラムと、これに続く授業コンサルテーションという一連の流れは、端緒についたばかりで模索状態とはいえ、先進的な試みで

あると言える。

## 1-3 FDリーダーワークショップ

次に、FDリーダーワークショップは、広い視野に立ってFD活動を組織化する、FDリーダー層に対する合宿型研修である。2005年度では、FD基礎プログラムと平行して、同じ日程・場所(原則的に部屋は別)で、大まかに以下のような流れでおこなわれた(徳島大学大学開放実践センターホームページより)。

参加者同士のアイスブレイキング/講義「メンターとは?必要な能力は?」/講演「パフォーマンスマネジメントの視点から授業改善を探る」(鳴門教育大学・島宗理先生)/FD企画の立案と実施I「FDと教育改善」「ニーズの把握」/基礎プログラム参加者に15分発表、10分討議/FD企画の立案と実施II「プログラム作成と研修技法の選択・手順」/FD企画の立案と実施III「研修当日の流れ」/FD企画の立案と実施IV「研修の評価」/講義「徳島大学でのメンター・メンティシップの在り方」/ミニ授業発表会参加/プログラムのまとめ

FDリーダーワークショップのねらいは、「10年以上の教育経験を有し、各学部・学科でFD企画を立案・実施する立場の教員を対象とし、FDニーズの把握から企画の立案及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて体得し、FD企画の立案能力を向上させようとするもの」であった(徳島大学大学開放実践センターホームページより)。

## 1-4 本稿の目的

以上のように、徳島大学では合宿形式の、新任教員、FDリーダー層それぞれを対象としたFDプログラムが実施されてきた。これらの成果に基づき、現在第2期プログラムとして、FD基礎プログラム、FDリーダーワークショップ、授業コンサルテーション、FDラウンドテーブル、FDカンファレンスといった各種のプログラムをおこなっている。本稿では、FD基礎プログラム(平成16年度、17年度)、FDリーダーワークショップ(平成16年度、17年度)の効果をアンケートで測定し、その結果を検討

することを目的とした。アンケート項目についてはそれぞれのプログラムのねらいに沿って作成した(項目内容は各表参照)。なお、アンケートは平成17年7月に実施した。回収率は48～80%であった。

## 2 FD基礎プログラムへの参加について

FD基礎プログラムに関するアンケートの回答者の所属は表1のとおりであった。

表1 FD基礎プログラムに関するアンケートの回答者の所属

	16年	17年
薬学部	1	0
総合科学部	3	0
工学部	4	3
医学部	5	1
大学院ヘルスバイオサイエンス	0	1
創成学習開発センター	0	1
合計	13	6

まずFD基礎プログラムそのものの評価(表2)については、「FD基礎プログラムへの参加はその後の授業実践に役に立った」という設問に対して平成16年度受講者の77%、17年度受講者の67%が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答している。また「FD基礎プログラムに参加して教授スキルが身についた」については、平成16年度受講者の54%、17年度受講者の50%が、「FD基礎プログラムに参加して教育への取り組みが熱心になった」については、平成16年度受講者の54%、17年度受講者の67%が、さらに、「FD基礎プログラムに参加してよかったと思う」については、平成16年度受講者の85%、17年度受講者の83%が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」に回答している。概ねFD基礎プロ

ラムそのものの評価は良好である。

次に、FD基礎プログラム参加以降どう変わったか(表3)については、「授業に自信が持てるようになった」(平成16年度受講者の54%、17年度受講者の50%)、「学生の状態を把握できるようになった」(16年度受講者の54%、17年度受講者の67%)、「教育に関心を持つようになった」(16年度受講者の54%、17年度受講者の83%)、「授業法改善にとり組むようになった」(16年度受講者の54%、17年度受講者の83%)、「授業の組み立てをより深く考えるようになった」(16年度受講者の61%、17年度受講者の83%)という項目で、両年度において半数以上の受講者が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」に回答していた。

表2 「(一昨年度あるいは本年度)6月に淡路島でおこなったFD基礎プログラムについておききます。以下のことはあなたにとってどれくらいあてはまりますか？」への回答

	年 度	あてはまる	どちらかとい えばあては まる	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまら ない	無回答
1. FD基礎プログラムへの参加はその後の 授業実践に役に立った	16	2	8	3	0	0
	17	1	3	1	0	1
2. FD基礎プログラムに参加して教授スキ ルが身についた	16	0	7	6	0	0
	17	2	1	2	0	1
3. FD基礎プログラムに参加して教育への 取り組みが熱心になった	16	2	5	6	0	0
	17	1	3	1	1	0
4. FD基礎プログラムに参加してよかったと 思う	16	2	9	2	0	0
	17	3	2	0	1	0













